

「豊かである」ということは私たちにとって一見よいことのように思います。しかしその反面、豊かになると、私たちは自分の主張ばかりを通そうとして争うようになり、チームワークが乱れてしまうのです。チームワークが乱れると、こけてしまいます。テレビで見られる、30人31脚は学級崩壊したクラスを1つにするために始められたものでした。勝ち負けではなく、1つの目標をみんながめざして進む・これは教会でもいえることです。教会は、一人一人が心の中で幸せだといえるために、競技をします。その中で、「一致する」ことが大切なのです。家族、仕事、友人関係などあなたが置かれる場所すべてでそうなのです。自分の主張ばかりをしている場所にゴールはありません。そして問題はずっとそのまま問題として残ってしまいます。イスラエルの民は、喜んでカナンの地に進んでいたのに足並みが揃わず、40年間荒野にさまよっていました。あなたは今、自分のいる場所から目的をもって一致して前に進んでいますか。目標を失いそのままにしておく心の中で自分だけが助かる道を選ぼうとしています。「自分だけ助けられればいい」「自分だけ楽しければいい」これがアダムとイブが犯した罪です。私たちは手をとりあって共に進むべきです。本当のチームワークとは個を磨きあって同じ目標に向かってそれぞれのやり方で近づいていくことです。頼るのではなくあなたの立場で役割をもって進むべきなのです。(出エジプト17:1～) ここには2つの対照的な記事があります。前者の記事、この時イスラエルの民は自分の問題を神に投げかけることも自分を見ることもせず、自分たちを導いていたモーセを裁き文句を言っています。一方モーセは神に自分の思いを言い真剣に求めました。イスラエルの民のように人に文句を言っているうちは変わりません。裁くだけです。私たちの目には様々な問題が入ってきます。そこで大切なのは人に言って変えようとするのではなく祈ることです。神に祈れば変わります。また後者の記事では、敵であるアマレクと戦う様子が出ています。現場で戦ったのはヨシュアでした。彼はとても前向きな人でした。またモーセとアロンとフルはモーセの手をアロンとフルが祈りの手が落ちないように支えるという形で共に祈って戦いに勝利を得ました。神様は1対1の関係を重んじますが、教会を与えたのはあなたが一人で倒れないためです。人ではなく神に手を向けて祈る、しかしそれは疲れてしまいます。だから共に祈り支えあうために教会を与えたのです。メリバ(争い) マサ(試みる) 私たちは神を試みて争っていないでしょうか。「神様がいるなら〇〇してくれ」あなたはこんなことを言っていないでしょうか。神を否定し、隣人をも否定するのです。これが恐ろしいことなのです。こうなるとあなたとつながっている人はみんな倒れてしまいます。(民20:7～) このときはモーセも神に祈り従うことをやめてしまいました。モーセも失敗したのです。失敗やマイナスを通して結論を出すとよいことにはなりません。大切なのはあなたがそれを守りたいかどうかなのです。アドナイ・ニシ(主の御座の手)とは主は勝利ということです。あなたが祈ると主の御座の手が働き勝利が起こるのです。だからこそみんなが祈り合い支えあえる環境に持っていくことが大切です。祈りには力があります。誰かがあなたのために祈っています。「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。」(エレミヤ33:3) 神様を呼ぶことが大切です。私たちが勝利をつかむために①願いは神に。まず願ってください。あなたの祈りがあなたの行動の先を進むことが大切です。神様はあなたが発した言葉の通りになる力をあなたに与えました。「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」(ピリピ4:6) あなたの願いをことばによって神様に知ってもらいましょう。モーセは素直な言葉で祈り神に願いを聞いてもらいました。あなたの心を素直に神様に向けてください。イエス様はあなたの友です。問題が起こったときに文句や不平を言う前に祈りましょう。②支え助け合う。まずあなたが願ったら一人で戦おうとせず共に手を取ってください。あなたは一人ではありません。だから教会があるのです。あなたと隣の人は結ばれているのです。まず話し合い神に祈り前進してください。信じて何度でも祈り足を一歩踏み出してください。(出エジ17:11～) あなたの置かれている環境で祈りあえる状況を確保してください。話し合い祈りあえる環境でなければみんな倒れてしまいます。そしてその中で御言葉の価値観を共有してください。③キリストに学ぶ。あなたがその時どうするかを考えてください。そのために、敵が来たとき、パリサイ人にさばかれた時、剣をもって自分を捕らえに来たとき、イエス・キリストがどのようにしたのか思い出してください。イエス・キリストはいつもわべだけを見ず問題の根源を見ていました。あなたの発することばは人をたてるか壊すかどちらかです。つまりあなたの言葉で勝利か敗北が決まります。ことばを選んでください。(マタイ11:28～30) イエス・キリストが負わせるくびきは重荷になりません。同じ重荷を背負っていても愛する対象であれば重荷にはなりません。そしてあなたのことを背負ってくれている人がいるから、あなたも誰かの重荷を背負うことができるのです。あなたの重荷はもう負われています。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい」(マタイ16:24) あなたの重荷はイエス・キリストが負ってくださいました。あなたが負われていることを知ってください。不一致の種(自分の主張を通すために人を裁くこと)があるならそれを取り、共に支えあい祈りあい勝利をつかんでいきましょう。あなたは決して一人ではありませんよ。